1.川崎遺跡　2.川崎貝塚　3.上福岡貝塚・権現山遺跡　4.川崎横穴群　5.ハケ遺跡　6.長宮遺跡　7.城山城跡　8.丸橋遺跡　9.松山遺跡　10.滝遺跡　11.富士見台横穴群　12.羽沢遺跡　13.黒貝戸遺跡　14.打越遺跡　15.水子大応寺前貝塚　16.大井戸跡遺跡　17.東台遺跡　18.鷺森遺跡

第1図　遺跡位置図

Ⅰ 調査に至る経過

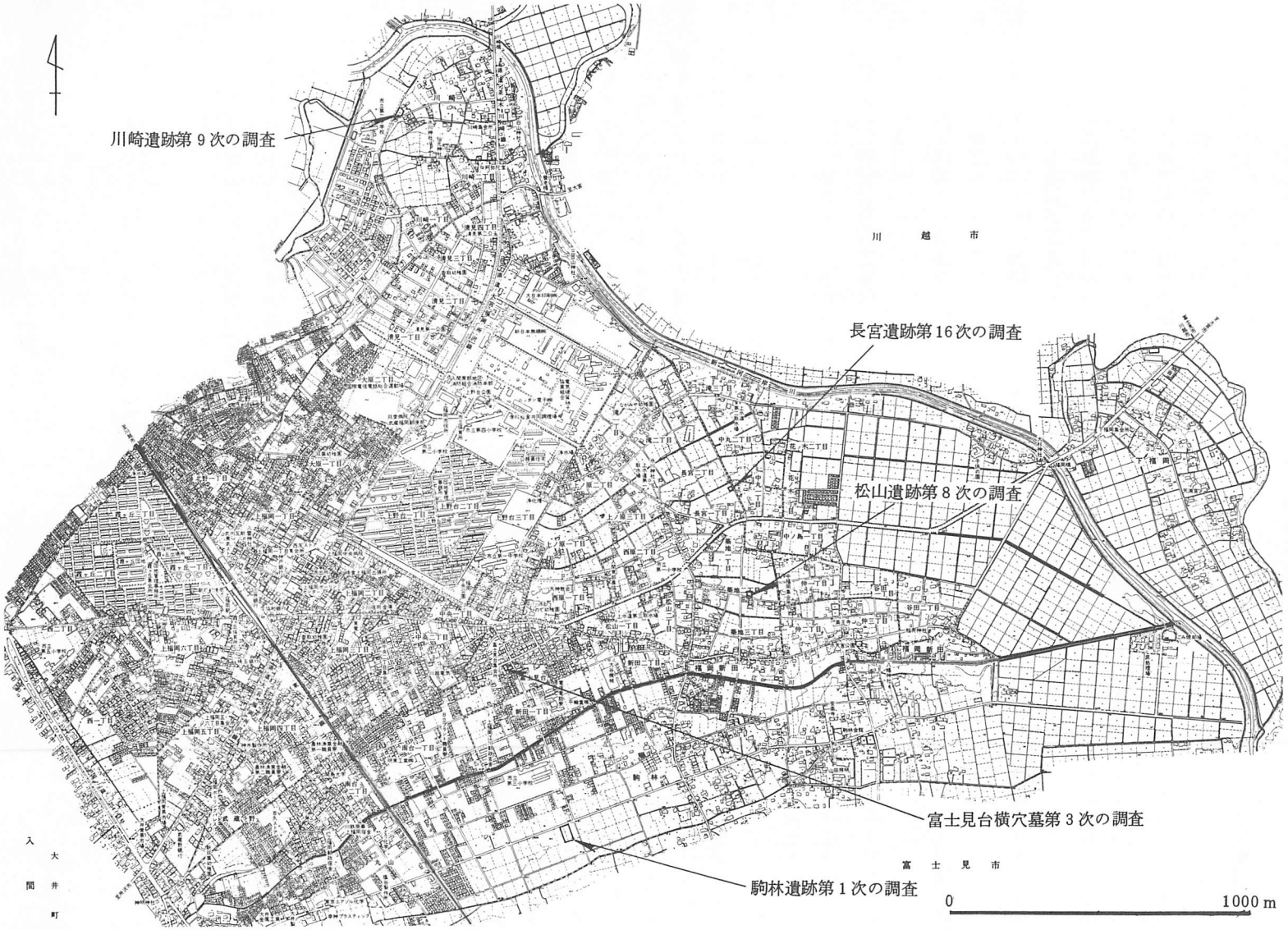
上福岡市は東京より30Ｋ圏内にあたる至近距離にあるために宅地化が昭和30年代より始まり、現在まで及んでいる。最近は宅地化も鈍くなってきたが、それでも、遺跡に対しては何らかの影響を与える所がある。

時に、近年は当市も再開発の状況を呈してきた。一昨年度は、これまで未検出であった古墳が、市道の舗装工事などで、発見された。それは再開発といえども、未だ地下の遺構は破壊されていないものがある証拠となったのである。

市では、過去８年間、国庫補助を受けてこれらの民間の小規模開発に対処するため、埋蔵文化財の調査を実施してきた。本年度は第２次５ヶ年計画の４年次にあたり、これらの遺跡調査は、庁内関係各課と連絡調整して行ったものである。すなわち農業委員会事務局から農地転用許可申請段階、また建設部建設課から開発事前協議、建築確認等の申請段階でそれぞれチェックされ、教育委員会に通知され、教育委員会は再度、遺跡地図と照会のうえ現地調査を実施し、遺跡の状況を確認したのである。そして遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発に対して、工事主体者（原因者）に連絡し、協議を行った。その結果、教育委員会が記録保存のための発掘調査を工事主体者（原因者）から依頼され、教育委員会が発掘主体者となって調査を実施することになったものである。今年度は、下記の５遺跡に対して、調査を実施した。

（遺跡名・調査区名・所在地）	（調査原因）	（調査面積）	（調査期間）
1. 長宮遺跡第16次調査区 長宮１－４－７	個人住宅建設	173 m²	６月９日～６月17日
2. 松山遺跡第８次調査区 築地２－４－12	個人資材置場建設	319 m²	７月１日～７月８日
3. 駒林遺跡第１次調査区 大字駒林字南原 353、354	範囲確認の試掘調査	1,536 m²	８月13日～８月25日
4. 川崎遺跡第９次調査区 大字川崎字宮後 172－１、172－２	個人住宅建設	495 m²	９月11日～９月20日
5. 富士見台横穴墓第３次調査区 富士見台 607－２	範囲確認の試掘調査	297 m²	１月20日～１月21日

（笹森健一）



第３図　調査区位置図（1／20000）

Ⅳ　駒林遺跡第１次の調査

駒林遺跡は、上福岡市の南側に位置し現状は畑を中心とした農地になっている。地形は北側約200ｍ程のところに東側方向に上福岡江川が流れ、南側約500ｍの程の地点に東西に小河川が流れている。したがって、この地区は両側に小河川が開折した扇状地の中央部にあたる。標高15ｍのラインで、この扇状地の末端には、この地より約1,000ｍ程東側には縄文時代の前期の鷺森遺跡が位置している。また、この地より南西方向約600ｍには富士見市になるが、縄文中期の集落跡が在存している。さらにこの地の南側約100ｍのところには、かつて開折していた小河川が存在してた痕跡が窺かえるようにゆるやかな起伏が認められる。

駒林遺跡は当市教育委員で分布調査を実施したとき、縄文土器や土師器の散布を見ていたため遺跡としていたが、しかし分布密度も濃密なものでなく、遺跡の中心や性格については、いっさい不明とせざるを得ない面があった。さらにその後、宅地化の度に２度に渡って試掘調査を実施したことがあったが、十分な成果を得ていない。

そのため、早急にこの遺跡の性格を捉える必要があった。そこで市の所有地がこの遺跡の中央に存在したため試掘調査を実施したものである。

調査は、昭和61年８月13日に調査区を設定することから開始した。

調査区は南北の土地境界杭を基にして、２ｍ毎に１～27区を設定し、さらに東西方向にＡ～Ｎ区を設定した。調査は１区列、３区列と奇数列を２区列づつ、ローム面まで掘り下げ、遺構の有無を確認を第１の課題にした。

その結果、表土の厚さが約50～60㎝程あり、その下に暗褐色土が10㎝程続きソフトローム面に至る土層の堆積をしていることが判明した。さらに遺構の有無の確認のグリッドにおける最終段階にて、25区列に溝遺構を確認した。

溝遺構は、緩やかなカーブを描きながらＧ－25区からＩ－27区に入りさらに、Ｍ－27区で南西方向に走っていた。溝の確認面上巾は１ｍ20～30で、深さ約60㎝程であった。レベル差からみると、東側が約５㎝に満たないが底くなっていた。

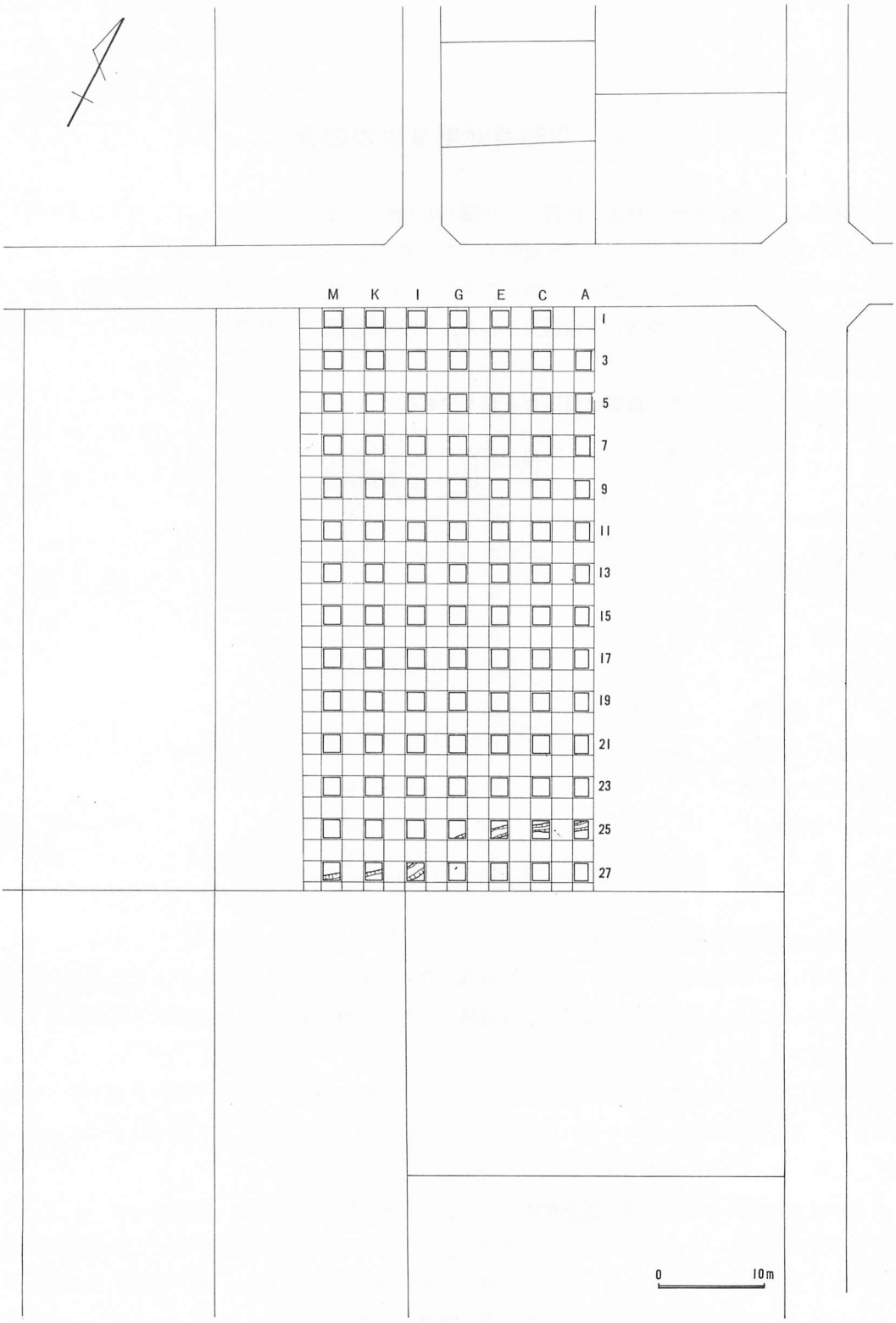
溝の覆土はローム粒子を混じこ黒褐色土層を中心としたもので、表土直下から掘り込まれたもので、非常にフカフカした土であった。したがって、中世以前には遡らないものと考えられる。

出土遺物は、溝中からは皆無であったが、表土除去の段階で、平安時代の土師器甕の破片が10数点と須恵器の破片が６点程出土した。土師器甕の破片は、胴部で細片のため図示できない。

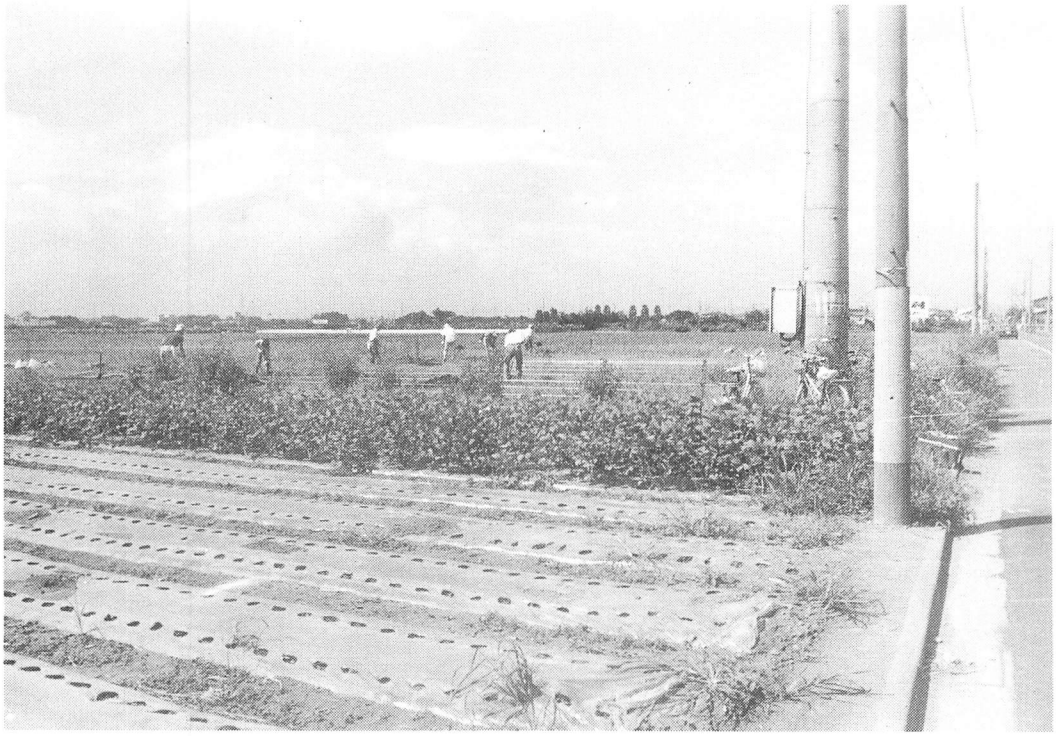
以上の調査では、遺跡の性格について不明とせざるを得ないが、無事所期の目的を達っして、昭和61年８月25日炎天下の中、作業を終了することができた。

なお、埋め戻しは、重機によって行った。

第８図　駒林遺跡第１次調査区位置図（1／2500）



第９図　駒林遺跡第１次調査区全測図（1／400）



1　駒林遺跡第１次の調査（東側より）

2　駒林遺跡第１次の調査（西側より）

1　駒林遺跡第1次の調査（北側より）

2　川崎遺跡第9次の調査（調査前）